



関川村立関川小学校 学校だより 令和2年度 4号

教育目標

ゆたかな心
たくましい体
すすんで学ぶ
関川の子

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

校長 見原 仁

今年度から、小学校では新学習指導要領が完全実施となりました。文部科学省（以下、文科省）は学習指導要領について以下のように説明しています。

「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文科省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に1度、改訂しています。

今回の改訂で、文科省は新しい時代を生きる子どもたちに必要な力を三つの柱として整理しました。「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」です。

この3つをバランス良く育むために、標題の「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善する、と文科省は述べています。そして、「一つの知識がつながり、『わかった!』『おもしろい!』と思える授業に」「見通しをもって粘り強く取り組む力が身に付く授業に」「周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に」「自分の学びを振り返り次の学びや生活に生かす力を育む授業に」の4つを示しています。

関川小学校では、これらの文科省の考え方を基に、今年度は、算数科の授業を中心に、以下のような授業を行うための研修を行っています。

まずは、「主体的に学びに向かっていく『問題』設定や『問題』提示の仕方を工夫する」です。「主体的・対話的で深い学び」の実現には、何と言っても「子どもが主体的に取り組む」ことが重要です。そこで、問題や問題提示を工夫することにしていきます。例えば、



授業の最初にこれまで習った問題を解きます。子どもは「できる」「簡単」と解いていきます。次にこれまでやったことがない問題を提示します（例；小数の計算を提示する）。すると、子どもは「あれ?」「どうするの?」と疑問をもちます。この「ズレ」を生かし、子どもたちの主体的な取組を促すのです。

次に研修しているのは「対話したくなる瞬間を引き出す授業構成の工夫」です。

上記に示したように、「あれ?」「どうするの?」と「ズレ」をもった子どもたちは、誰かに相談したくなります。その機会を逃さず、教師は「何がわからないの?」「どうすればできそうかな?」と問います。子どもたちは「～が今までと違う、わからない」「～すればいいんじゃないかな」と考えを表出します。その考えを整理し、



他の子どもたちに広げていくのが教師の大きな役割です。つまり、対話的な学びを行います。そして、子ども同士の考えを広げたり、つなげたりして問題を解き、子どもたちの深い学びを実現していきます。基本的に、子どもたちの力で解けるようにコーディネートするのが教師の役割です。

6月末に、下越教育事務所指導主事と、関川村教育長をお招きし、全学級の授業を見ていただきました。指導主事、教育長からは、どの学級も子どもの学ぶ姿や教師の働き掛けが良い、

とお褒めの言葉をいただきました。当校の教職員は研修主任を中心に授業について熱心に研修を行っています。新型コロナウイルス感染症対策のため、子どもたち同士の話し合いはかなり制限されています。それ以外にも、まだ不十分なところはありますが、今後も研修を積み重ね、子どもたちの力を伸ばしていきます。

